



▲ガールスカウト静岡第89団による活動事例の紹介

青少年健全育成のための  
団体による  
**活動事例発表**

▶ **西小親父の会**

子どもたちとのイベントを通して、父親（保護者）同士の交流・親睦を深めるためにスタート。「無理なく」「できることを」「楽しく」「子どもたちのために」を合言葉に、子どもたちと本気で遊び、一緒に楽しむために、夏休みイベント「流しろうめん」や校舎のペンキ塗りなどを行っています。

▶ **ガールスカウト静岡第89団**

1. 興味をもったことに挑戦し、自分で考えて実行する自己開発力を身に付ける。
2. さまざまな人と交流し、お互いを尊重し合うことを学ぶ。
3. 野外活動を通じて、いのちや自然の大切さを身近に感じる。



**青少年健全育成大会  
目的**

**子**どもを育てることは未来の地域の人材を育てることです。現在、家庭のあり方が多様化して行政などの支援が必要になっているケースもしばしば見受けられます。

子どもたちが健やかに育つには、地域、学校、家庭の連携が必要です。子どもたちが元気に成長できる環境をつくるために、地域みんなで協力していきましょう。そして、函南町から「未来をはばたく若い力」を育てましょう。

第67回 社会を  
明るくする運動

**ポスター入賞作品**



社会福祉協議会長賞  
おたぎりとしき  
桑村小6年 小田切 俊樹 さん



校長会長賞  
きうち ゆいと  
東小6年 木内 唯斗 さん



町長賞  
えんどう ありさ  
函南中3年 遠藤 有彩 さん



三島地区保護司会長賞  
いわき りゅうのすけ  
西小6年 岩城 龍之介 さん



町議会議長賞  
みずやし かりん  
函南小6年 水林 夏鈴 さん



三島地区厚生保護女性会長賞  
すずき ひな  
丹那小6年 鈴木 妃来 さん



教育長賞  
さくらい まや  
東中3年 櫻井 真彩 さん

**私の自慢の山助トマト**

やまもと なな  
田農高3年 山本 七菜 さん



**人**気の野菜「山助トマト」は私の曾祖父の名前と名字から名づけられました。

トマトの本格的な栽培を始めたのは祖父で、現在は私の父が作っています。農業を始めて20年の父は、はじめは野菜作りに関する知識はあまりなかったのですが、年数を重ねて失敗をし、やっと納得のいくトマトを作れるようになったそうです。父は、おいしいトマトを作るためには「本人のやる気」が一番大切で、やる気があれば、たくさんの知識を学ぼうとし、失敗しても次は頑張ろうという気持ちになる。今でも毎日が勉強だそうです。農業は大変だけど、植物の成長が見れ、野菜を「おいしい」と食べてもらえると、うれしいし、やりがいがあると言っています。一つのトマトをおいしく作るために細かいところまで気を配っているという話も聞いて、このトマトを多くの人に知ってもらいたいと思いました。より多くの人にこのトマトを知ってもらうために、トマトパスタを作り、そのパスタをメインとした農家レストランを開き、そこで宣伝をしていきたいです。この目標に向け、パスタの試作やレシピの研究をしていきたいです。

現在、農家が減少していますが、私は農家の娘として野菜の知識や栽培技術を身に付け、日本の農業振興の発展に少しでも貢献していきたいです。

**当たり前のありがたさ**

みた わかな  
東中3年 三田 若奈 さん



**も**し当たり前の生活が急に目の前から消えてしまったら、あなたならどうしますか。私は昨年急に入院することになり、学校へ行くという当たり前の生活ができなくなりました。入院中は体調に波があり、症状がどのように変化するかわからず、1か月ほど狭い部屋から出ることができなくて息苦しい日々が続きました。

そんな私を医師の先生、看護師さん、家族、友達が支えてくれました。入院前は友達とのけんかやテストなどの些細なことで学校へ行きたくないと簡単に口にしていました。しかし、入院したことで、学校へ行くという当たり前の生活がどれだけ素晴らしいかを実感しました。

自分の体験を通し、皆さんにも当たり前のことを当たり前と思わず、「ありがたい」と思ってもらいたいです。また、私は周りの人に支えられて困難を乗り越えられたので、皆さんにもどんな困難があったとしても諦めないで前向きな気持ちで立ち向かってほしいです。

今は病気も完全に治り、当たり前の生活を取り戻すことができている。私は入院中に助けてもらった分、今度は私が医師になって一人でも多くの人を救いたいです。

目の前の当たり前の光景を「ありがたい」と思えば、毎日を大切に過ごせるようになるのではないのでしょうか。

**祖父から学んだこと**

はらぐち ゆうな  
函南中3年 原口 結菜 さん



**祖**父は生まれつき聴覚障害があり、一緒に外出するのは周囲の冷たい視線などを感じるため、あまり好きではありませんでした。

しかし、母が入院した1か月間、祖父母とともに生活したことで私の意識は大きく変化しました。祖父は、人生の中で辛い思いや不便さを誰よりも感じているはずなのに、いつも笑顔ではつらつとしています。車の運転もでき、手先がとても器用です。また、口の動きで祖父と会話する際、すぐ私の気持ちを理解してくれます。このような祖父の魅力がたくさん発見しました。そして、障害は一つの個性だということに気付いた私は、祖父への周囲の反応を気にしていたことが恥ずかしくなりました。

この気持ちの変化は私自身への意識の変化にも及びました。私には祖父のように自慢できるものがなく、物事が思うように進まず、周囲と比較して落ち込むことがあります。でも、自分の良さに気付いていないだけだと思い、これからは自分を責めるのはやめよう決めました。

私には将来助産師になる夢があります。例えば赤ちゃんが障害をもって生まれてきても、母親と温かな関係を築いていけるようサポートし、心の支えになりたいと思っています。

祖父から学んだことを生かし、これから一歩ずつ、夢の実現に向け行動していきます。